

3 番 和 田 皆様、改めまして、おはようございます。それでは、一般質問をさせていただきます。

受付番号1番、質問議員3番、和田成功。

件名「1. 子どもにやさしいまちづくりを」、「2. 移住定住の推進を」。

1. 人口減少社会において、当町も令和5年2月1日現在の人口は9,575人、世帯数は4,218世帯となっており、少子高齢化、生産年齢人口の減少に歯止めがかからない現状がある。

次代を担う子どもたちが健やかに育つことができる環境整備や、子育て世代が安心して子どもを産み育てることができる環境整備など、「子どもにやさしいまちづくり」を積極的に取り組むことにより、当町のイメージアップなどにも寄与すると考え、以前にも質問しているが検証も兼ね改めて問う。

①令和3年10月から業務委託となった「やまきた児童クラブ」の運営において、安心・安全な体制整備への取組状況は。

②令和4年度から実施された「0歳から15歳の一貫教育・保育」の取組状況は。

2. 東山北駅周辺地域は、豊かな自然に囲まれた平坦な地域であり、定住促進・生活拠点再生エリアとして位置づけられ、平成23年3月には東山北1000まちづくり基本計画が策定された。当町における人口減少対策として重要な施策であると考え問う。

①東山北1000まちづくり基本計画の進捗状況は。また、計画の推進による実績について、どのように捉えているのか。

以上。

議 長 答弁願います。

町長。

町 長 それでは、和田成功議員から「子どもにやさしいまちづくりを」、「移住定住の推進を」についての御質問をいただきました。

初めに、1点目の「子どもにやさしいまちづくりを」についての1番目の御質問の令和3年10月から業務委託となったやまきた児童クラブの運営において、安全・安心な体制整備への取組状況についてであります。やまきた児童クラブは児童福祉法に基づく放課後児童健全育成事業、いわゆる学童保

育の事業所として、平成25年4月に公設公営で事業を開始し、支援員の専門性の高まりや人材の安定的な確保、支援が必要な子どもの増加や多様な体験・活動が求められていることから、令和3年10月に運営業務を民間業者に委託したところです。

業務委託では仕様書において、例月の業務検査に加え半期ごとに利用者アンケートを実施するよう条件をつけ、利用者のニーズの掘り起こしを行うなど子どもの安全・安心を第一に運営内容の充実を図っております。

業務委託後は、川村小学校との合同の避難訓練や放課後児童クラブとの合同の研修を実施、支援が必要な子どもの指導方針等の情報の共有など小学校放課後児童クラブ、放課後子ども教室が積極的に連携しております。

さらに、今年度からそれらの所管が子ども教育課に一元化したことで、例えば台風や悪天候等で下校が早まった際の開所時間の調整や支援員の配置など即応性が求められる場面においても町・学校・受託者がより迅速かつ円滑に連携が取れるようになり、安全・安心のレベルの引上げにつながっております。

次に、2番目の御質問の令和4年度から実施された「0歳から15歳の一貫教育・保育」の取組状況についてであります。 「0歳から15歳までの一貫教育・保育基本方針」の3本柱である「めざす子ども像の共有」、「山北スタンダードカリキュラムの推進」、「切れ目のない子育て支援体制・支援につなげる情報共有」を基に、「社会の中で他者とよりよく関わりながら自分らしく生きることができる人間力と社会力の育成」を目指して取り組みを進めております。

今年度の実践内容は町内の全教職員に対して、趣旨や目的、取組方などを周知し、目指す子ども像の共有を図り、「山北町豊かな学び研究会」において、具体的な取組の計画や実践研究と振り返り、次年度に向けて検証を行っております。

その他、活用しやすいアプローチ・スタートカリキュラムの作成のための情報共有の外国語を窓口とした園・小中学校間交流の充実、森林体験学習や社会科副読本等を生かした郷土愛の育成、園を含むICT環境の整備と活用、「第二次山北町子ども読書活動推進計画」に基づく読書活動の推進や人権教

育の充実、食育の推進など様々な取組を行ってまいりました。

そうした中で、本年度特に顕著な取組となったのが、園・小中学校間の教職員の交流です。一貫教育・保育の目指す「切れ目のない学び、支援の充実」には、教職員間の連携と情報共有、相互理解をさらに進めることが必要であるため、今年度は「顔の見える関係」を合い言葉に2月末までに延べ140名の教職員が参加し、園・学校間の積極的な保育や授業の参観、研究会への参加、情報交換の場づくりを進めました。

今後も教職員の意見を反映しながら、「0歳から15歳までの一貫教育・保育」をさらに深化させ、切れ目のない、より質の高い教育・保育と子どもたちへの支援が実施できるよう、園・学校・家庭・地域が一体となって教育・保育環境の充実を図ってまいります。

次に、2点目の「移住定住の推進を」についての御質問の「東山北1000まちづくり基本計画の進捗状況は。また計画の推進による実績についてどのように捉えているか。」についてであります。東山北1000まちづくり基本計画につきましては、地元自治体や自治会や町内関係団体などと検討を重ね、地権者の理解も得ながら、まちづくりの方針のほか重点的に整備する地区や取組を定め、平成23年3月に策定してから現在12年が経過しているところでです。

それぞれの重点地区の進捗状況についてであります。まず初めに、原耕地地区につきましては、商業ゾーンに位置づけており、平成26年に大型スーパーとホームセンター、令和元年にドラッグストアが開業し、町内を問わず多くの方の買物の場として、生活の利便性の向上が図られております。

次に、東山北駅前地区につきましては、平成29年度から令和2年度までの4年間で駅前広場を整備したことにより、県道での迷惑駐車解消が図られ、さらに、送迎や電車の待合時における利便性の向上、町の循環バスのルートに加えたことによる交通機能の強化などが図られております。

水上地区につきましては、住宅ゾーンの重点地区として位置づけており、みずかみテラスの建設と併せ、アクセス道路である町道水上2号線の整備が完了したことで、今後の向原保育園の移転と道路整備を含めた全体の土地利用計画の策定に向けて、検討を進めているところです。

尾先地区につきましても、住宅ゾーンの重点地区として位置づけており、これまでに地権者で組織される尾先地区土地利用研究会で土地利用の検討を行っているところですが、アクセス道路となる町道菜萁ノ木松原線先の整備計画が確定していないため、道路整備の進捗に併せて、土地活用について検討を図っていくこととなっております。

これらの計画の推進による実績についてですが、住宅ゾーンの重点地区である水上地区と尾先地区につきましては、現在計画を進めている途中ではありますが、人口減少対策として徐々に効果は現れつつあります。

また、最近では、岸・向原地区において民間事業者による宅地分譲開発等も複数行われるようになってきていることから、本計画の推進による一定の効果は得られているものと思っております。

今後は、計画の目標の実現に向けて、住宅ゾーンの重点地区に位置づけております水上地区と尾先地区について、土地利用研究会と連携を図りながら引き続き土地利用の推進を図っていきたいと考えております。

議 長

3番、和田成功議員。

3番和田

御回答いただきましたそれについて、再質問をさせていただきたいと思っております。

回答の中に、まず最初に、児童クラブですね。利用者アンケートを実施していると。利用者のニーズを掘り起こすというような御回答ありましたが、実際アンケートを実施されて、どのようなニーズが見えてきたのか、その辺について、ちょっとお聞かせ願います。

議 長

こども教育課長。

こども教育課長

アンケートにつきましては、どのように感じられてるかということで、アンケートを取らせていただいております。ニーズと言いますか、この児童クラブのほうへ行くのは子どもたちはどう感じているとか、使い勝手はどうかというような質問させていただいて、それにつきまして、利用料金の改定、半額とかそのようなことに生かさせていただいて、改定をさせていただいて、より使いやすい児童クラブにしていこうと鋭意しているところでございます。

議 長

和田成功議員。

3 番 和 田 議会の福祉教育常任委員会で、令和4年6月に児童クラブのほう、現地視察させていただきました、実際に。以前より環境面に関して改善されている部分もあるなどという感じを受け取っておりますけれど、民間ノウハウを活用されてる部分も一定程度見受けられてる状況ではありましたが、当初民間委託、業務委託するに当たって民間ノウハウを活用というようなお話だったと思うんですけど、もっと民間ノウハウを活用して、よりよい環境整備というのが求められてくるのかなというふうに感じておりますけど、その辺についてはどのように考えておりますか。

議 長 こども教育課長。

こども教育課長 民間に委託をしまして、委託先がほかのところ、児童クラブも運営しているという実績もございます。そのようなことで、そちらとの連携だとか、あといろいろな子どもたちが飽きないようなイベント、例えば縄跳び教室、プロの縄跳びの方を呼んでの縄跳び教室だとか、あとほかの放課後児童クラブと一緒にオンラインでつないでギネスに挑戦と。そのように子どもたちが楽しめるようないろいろな工夫をして、安心、それと安全に過ごせるようにしてございます。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 ちょっと今聞いてると、業者任せなのかなというところがちょっと感じられたんですけど、委託といってもやっぱり町が主導で、町としてこういうふうな環境、こういうふうな方向でというのをもっと積極的に言って、その中で事業者が各ノウハウを活用して、よりよい環境づくりに取り組んでいくべきだと考えるんですけど、その辺について、もっと町側として積極的に取り組んで関わっていくというような、そのような考えはどうなんでしょうか。

議 長 教育長。

教 育 長 委託業者に任せっきりという考えはございません。常に良好関係という形で課長が出席、それから川村小の校長も出席、そして施設のほうから代表者が出席。そういう中で毎月情報交換会やっています。今やってる取組状況を報告受けてたり、そしてこちらからの要望と学校からの希望とそういった面をすり合わせながら、充実した放課後児童クラブの運営に当たっていきたいというふう考えてます。

さらに、児童クラブのミーティングがございますので、その辺の報告も逐一、こども教育課のほうに報告していただいておりますので、どういう状況で今進めているのか、そういったような逐一、理解しながら、そして必要に応じて、こちらも要望とか、あるいは意見とかそういったものを行いながら、よりよい運営に当たっていきたいというふうに考えてございます。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 教育長からの回答で任せっきりじゃないんだと、ちゃんと町も関わってやっていってるというような御回答でした。今後もそのようにやっていっていただきたいと思いますが、先ほども言いましたけど、視察をしたときに、6月というところで年度から年度初めから2か月ちょっとしかたっていない状況の中で、子どもたちが環境が変化した中で、まだ落ち着きがないような状況で、支援員さんが大変苦勞されているような状況、また手がかかるお子さん等がいて、ちょっと手薄になるような状況の場面も見受けられて、そこで子どもたちですから、ちょっといざこざとかというのが目についたと。

そこで、そういう時期に関しては、もう少し手厚いというか、支援員さんの加配ですか、その辺もうちょっと柔軟に対応してやっていくことによって、子どもたちにとって安心・安全な環境というのが整備されていくのかなというふうに感じるんですけど、その辺についての対応の考えはいかがでしょうか。

議 長 教育長。

教 育 長 確かに、各教育環境、一時は狭い施設の中で多くの子どもたちが活動してたという状況の中で、町の側もやっぱり施設の面をさらに充実する使いやすさの形が必要だろうということで、いくつか何点か改良しながら、よりよい教育環境整備という形で上がってきました、やってきました。さらには、支援員というところの中で、委託先がかなり全国的に、全国的というか幅広く行ってますのでいろんなノウハウを持っておられます。そういった中で支援員の資質の向上、これもやはり大きなところじゃないかなというふうに思っています。

これまでは直営だったんで、なかなか年に数回そういった面での研修だとかやってましたけども、そういった面では、さらにそういった面がさらに人

材のそういった資質の向上に研修を通して上がってくるのかなというふうに思ってます。ですから、これすぐにできるものじゃございませんので、これはやはり少し計画的に、そういう研修を重ねながらやっていくことが必要じゃないかなというふうに思ってますので、教室環境整備と、そして支援員の資質向上、そして管理・運営のそういったところもうまく重ね合わせながらやっていくことが大切であるというふうに思ってますし、その辺のところをしっかりと力を入れて町としましても、やっていく必要があるというふうに考えてございます。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 支援員さん等の資質向上等に取り組んでいただくと、すぐにできるものではないというようなあれでしたけど、今の人数で資質が向上していった安心・安全がちゃんと確保できるのであればいいですけど、それまでの間、事故とかがなければいいんですけど、そういった部分も配慮して加配等のやっば柔軟な対応というのは、町として考えていくべきじゃないかと思うんで、最後ですけど、もう一度その辺について御回答願います。

議 長 教育長。

教 育 長 放課後子ども教室に関わる子どもたちの数ですけども、定数、いわゆる申し込んだ数と実際に1日の中で活動している子どもというのが約半分なんです、実際には。

例えば4月あたりですと38名の人数だとかそういった1月の場合には29名とか、こういった報告も受けてます。ですから、そういった中で人数はかなり絞られた中で実際には活動しているという状況ですけども、そういった中で、やはり子どもたちが居場所という形の中で活動しているわけですので、そういった中でまず第一には安全・安心でなければいけない。これを第一に考えながら。そして、その居場所の時間を子どもたちにとってよかった、充実した、そういった時間にしなきゃいけないということの中で、アンケートの中でもそういった面ではかなりいい評価を受けてございますので、それらをさらにレベルアップしていきたいというふうに考えてございます。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 レベルアップしてよりよい環境づくりに今後も取り組んでいただ

たいと思います。そして児童クラブなんですけど、保育の場であるということは十分認識しておりますが、学びの場としても必要じゃないかとか学びの場の提供というか環境もプラスアルファで取り組んでいくのも必要かなと考えるんですけど、その学びの場、学習の場というんですか、その辺についてどのようにお考えでしょうか。

議 長 教育長。

教 育 長 基本的にはクラブの運営方針がございまして、まず第一には生活習慣、この生活習慣の中には学習習慣もつけるとこういうふううたってございます。

あるいは遊びや体験を通した社会性を培う、あるいはいろんな遊びなどの活動もやる。そして行事にも参加する。こういうふうな運営方針がございまして、その中に生活習慣という中に学びの習慣もありますので、そういった面で、単に遊びだけじゃなくて、そういった学習面にも目を向けた中での活動をやっていく必要があるかというふうに思っております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 生活習慣とか学びというところをしっかりとやっていただければ、預けてる保護者の方も安心・安全に預けられるといったところで、今後も積極的にその部分についても取り組んでいただきたいと思います。

学びの部分で地域との連携というところも必要になってくるのかなというところなんですけど、なかなか地域との連携というのが見えてきてないように見受けられるんですけど、現状はどのようになっているんでしょうか。

議 長 教育長。

教 育 長 地域との連携もあると思います。今、小中学校が園も含めて地域との、ゼロから15歳までの一貫教育の中で地域との連携をかなり積極的に主体的に進めております。そういう成果がかなり多く出てきてます。そういったものをこの児童クラブのほうにも波及していきたいと、これやっぱり山北町ならではの取組であろうかというふうに思います。

ですから、委託先のところがそういった関係があまりないところもあるんじゃないかなというふうに想像はできますので、山北町ならではのそういったよさ、そういったものをこの児童クラブにも反映していければというふうに思ってます。ですから、まだまだこれからの中で積極的にその辺のところ

は、取り組んでいきたいというふうに考えてございます。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 教育長のほうから今、一貫教育保育のほうのコミュニティースクールですか、地域との連携というんですか、そういった御回答ありましたけど、まさに委託先ですか、町外事業者ですから地域との接点というのはなかなか少ないようなところが見受けられます。そういった中で、行政が間に入って地域と児童クラブとをマッチングさせるようなそういう取組というのは、やっぱり重要で、やはり今後一貫教育保育にも関連するんですけど、子どもたちを地域で見守り、地域で育てる、そういったような取組が今後必要になってくる。

そこで町独自の特色を生かした取組というのができてくれば、大変魅力的な施策になるんじゃないかと、事業になるんじゃないかと期待しているんですけども、その辺についてはどうお考えでしょうか。

議 長 教育長。

教 育 長 まさしく、その考えのとおりだというふうに思います。

ですから先ほど言いましたように、この地域との連携だとかそういった面はおそらくその児童クラブ、私も十分把握しているわけではございませんけれども、おそらくそれほどないんじゃないかなというふうに思います。そういう面では山北町ならではの大きな魅力のある運営の一つになるんじゃないかなというふうに思っております。

ただ、その支援員さんを今先ほど申しあげましたとおり、研修を積みながら、そして資質を向上し、能力を高めていく、そういう今段階であるというふうに思っております。

ですから、今は児童クラブをまずはしっかりと運営していく、いろんな課題等も確かに過去ありましたので、そういった面がないように、まずしっかりと児童クラブで子どもたちの居場所づくりを楽しく、そして安心・安全である、そういう形がまず第一だと。

その段階を経て、それから、さらにそういった学習面だとか地域との連携とか、そういった面を少しずつ組み入れながら充実した学童保育の運営に当たっていききたいという、そういう考えでございます。

議 長 和田成功議員。
3 番 和 田 期待しておりますので、今後も積極的に取り組んでいただきたいと
思います。

続きまして、放課後子ども教室との連携は図られているというような回答
であったと思うんですけど、もっと積極的に、そして放課後子ども教室に関
しては公設公営的なものですが、委託等も見据えて取り組む必要もあるの
かなというようなことを感じておりますけど、その辺についてのお考えはい
かがでしょうか。

議 長 教育長。
教 育 長 放課後子ども教室の関係ですけども、児童クラブの子どもたちは全て子ど
も教室に参加しております。そして、さらに子ども教室のみを希望する子ど
もたちと一緒に活動しているんですけども、いろいろ今、公設公営で行って
おります。

子ども教室、週に1回、そして夏休み中は特別に3日間行ってます。かな
り内容も工夫しながらやっているというふうに私自身も思っております。
そういった面では子どもたちも非常に楽しみにしておりますし、さらに児童
クラブと関係をさらに今いい状況にきてますので、さらにそのところ、充
実させて行く行くは委託というのも視野にあるかというふうに思いますけど
も、当面においてはしっかりと今放課後子ども教室を充実させ、そして児童
クラブと連携をさらに図りながら進めていきたいというふうに考えてござい
ます。

議 長 和田成功議員。
3 番 和 田 連携強化、とても大事だと思います。今後も積極的に取り組んでいい
いただきたい、期待しておりますので。

それでは、続きましての2つ目の質問に移らせていただきまして、「0
歳から15歳までの一貫教育保育」について再質問させていただきます。

ここに関してちょっと言葉が悪いかもしれないけど、担当課が一元化、窓
口一元化した以外、なかなか見えてこない部分があるんですけど、実施前
に私が0歳から15歳までの一貫教育保育への実施に向けての取組状況等につ
いて質問させていただいたときにも、聞いてるところを検証しながら再質問

させていただきたいと思います。

0歳から15歳までの一貫教育・保育、この取組によって、いじめや不登校など教育問題への効果が期待されていましたが、今年からですけれど、その効果等、取組状況等どのような状況か御説明願います。

議 長 教育長。

教 育 長 一貫教育保育の効果と言いますけども、なかなか教育の場合には数字で表すことができないんです、なかなか。じゃあ、例えば学状で毎年3年生小学校6年生がやってますけども、これが一貫教育保育を今年度からスタートしました。じゃあ、すぐにそれが上がるかと、これはなかなか難しいところがございます

あるいは、先日も身体力テストの結果が報告がございました。これもすぐに上がるかというところでもない。やはり教育というのが長い年月たって効果が現れると。すぐに出る場合もございますけども、そのところはなかなか難しさがあるという中で、先ほど答弁にもありましたけども、顔の見える形、いわゆる園・小・中のまず先生方が顔の見える形で取り組みましようという形の中で、いろんな研究会ですとかそういったのに向いて、そして何でも言い合える、そしてお互いにそれぞれの園の運営や小学校の子どもたちの様子、中学校の様子そういったことをしっかり理解した上で取り組んでいくという、これのところをまず今年度は特に重点的にやったという中でございます。

そういった中で、幼稚園、岸幼稚園が文科省の研究発表が2回行いました。県の発表も今年たまたま当たったんですけども1回ございました。そういった中で最後の研究会の中で、いろんな御意見いただきました。そういった中で山北町の取組が大変いいということで、特に地域との連携が素晴らしいというような御意見も伺っております。

ただ、それだけじゃなくて、これからさらにそういった顔の見える形だけじゃなくて、中身をさらにこれから充実させていく必要があるかなというふうに思っています。ですから、園から小学校につながるアプローチカリキュラムあるいはスタートカリキュラム、これをしっかりとつくっていかなくちゃいけないし、それから小から中学校への中1ギャップという、今、先ほど議員

も言われたように不登校の問題、そういったものを解消していくなだらかな段差、あるいは接続、そういった面をしっかりとつくっていく。そういった形でその辺が徐々に成果として現れてくるのかなというふうに思っています。

ただ、考え方として、それぞれ園・小・中の先生方の中で特に今年こういった趣旨・目的そういったものをしっかりと説明のほうさせていただいて、みんなでやっというふうなそういう気持ちがかかなり、かなりという大きくなってございます。そういった面では一体となった取組がこれからますますされていくのかなと期待をしているところでございます。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 大変期待が持てるような御回答でありましたけど、小1プロブレム、中1ギャップ等の解消に向けて今後取り組んでいく、そういういじめや不登校の解消等にもつながってくるのかと思うんですけど、そういうふうに、すぐには結果が出ない、数字として現れないというところですけど、期待しているのでしょうか。その辺、もう一度お答えいただければと思いますけど、いかがでしょうか。

議 長 教育長。

教 育 長 私たちも期待してこれに取り組んでございますので、必ずや成果として現れるものだと確信してございます。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 期待しておりますので、何とかいい成果が出るように今後も積極的に取り組んでいっていただきたいと思います。

回答の中で山北町豊かな学び研究会というような御回答の中にありましたけど、その研究会でどういう取組、研究というのがされているのかを少し説明していただきたいと思うんですけど、いかがでしょうか。

議 長 教育長。

教 育 長 豊かな学びの研究会でございますけど、これは以前からあったものでございます。ただ、そういった中身を少しずつ精査しながらよりよい形でもっていきたいというふうに考えてございます。

今山北町では県からの指定の学びづくり研究会ということで、県から助成金をいただいて、大学の先生等を招聘しまして研究会に参加していただいて

いろいろ助言、アドバイスをいただいて進めているという中で、先生方の資質向上を図ってるというところがございます。

豊かな学びについては、園も含めた中で園・小・中そしてその中で研究会をして、今取り組んでいる状況を話をしながら、そして2月には最後のまとめという形の中で今年度を振り返るという形で会議のほうやっております。

そういった中で、先ほど言いましたように顔の見えるところを重要視しようということで取り組んできて、キーワードとして、そういう形で進めてきましたけども、そういった面で非常によかったという形がありましたので、さらにこれを進めていこうということで。さらにカリキュラムを、さらにそういうところを精査しながら進めていきたいと思いますというように、そういう最後の2月に豊かな学びの研究会を実施してございます。

それらを会に参加した先生方だけでなく、それを持ち帰って園・小・中学校の先生方にしっかりと伝えて、そして次年度に向けて進めていこうということの確認をしたところでございます。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 理解しました。今後も山北町豊かな学び研究会を積極的に調査・研究等を進めていっていただいて、よりよい一貫教育保育になるように取り組んでいただきたいと思います。

それで次に、回答のほうにもありました園を含むICT環境の整備、これがされてると思います。環境整備がされたことは認識しております。ただ、その活用について、なかなか見えてこない部分があるんですけど、小中学校に関してはGIGAスクールで一人一台パソコン等整備されてると思います。

園についてもネット環境が整っている状況を整備されている環境整備は整っている。ただ、その活用がなかなか見えてこないというところで、どのような取組をされているのか、また今後どのように活用していくのか、やっぱ環境整備だけでなく活用して初めて効果というか、そういったところが見えてくるんだと思うんですけど、その辺について、御説明願います。

議 長 教育長。

教 育 長 ICT環境の整備ということの中で、今、国のほうで令和の日本型学校教

育の在り方という形の中で、学校教育の在り方ではなくて令和という、いわゆるこれからの学校教育の在り方という中の柱の大きな一つに、やはりICTがございませう。

そういった中で一人一台パソコンは整備できました。そういった中で、やはり先生方がどう活用するかという討論が一つ大きな課題でございませう。そういった中で、ICTの支援員、いわゆる先生方だけでパソコンをどう活用していくかというのもなかなか難しさがございませう。

やはり教育の専門の方に入っただいて、指導を仰ぎながらどう使っただいばいいのか、と同時にどう還元していったらいいのか、そういったのを学びながら実際に動かしながら、そういった能力をつけていくことで日々の授業等に当たっただいけるんじゃないかなというふうに使っただいませう。

さらに今後はデジタル教科書が入っただいませう。そういった面では、さらにそのICTの活用、これがやはり大きな課題じゃないかなというふうに使っただいませう。

また、山北中学校ではパソコンの持ち帰りも実施してございませう。そういった中で日々学校だけじゃなくて、家庭生活においてもそういったICTの活用ということも必要じゃないかなというふうに使っただいませう。

また、園のほうでWi-Fi環境、環境整備ができましたので、そういった中で保護者への情報発信そういった、あるいは地域の情報発信、そういった中で、さらにそういった面での活用を進めていきたいなというふうに使っただいませう。

さらに、次から次へと新しいやり方だとかこれはどうだとかいろいろあると思っただいませう。ですから一歩一歩きちっと踏まえながら、ICTの活用を図っただいませう。

議 長

和田成功議員。

3 番 和 田

今後も積極的にその辺活用してっただいばい、時代に合う環境ですか、というのに取り組んでっただいばいと思っただいませう。

続きまして、以前質問したときにも質問させてっただいばいんですけど、インクルーシブ教育、これ時代的に大変重要になってくるものではあると思っただいませう。取り組んでいくというふうな以前回答がございましたが、今年度ど

のような取組がされて、どのように効果というんですか、というその辺について御説明願います。

議 長 教育長。

教 育 長 インクルーシブ教育についてでございますけども、これについてはやはりいろんな状況がございます。そういう中、山北町で取り組んでるのは、これは県内全部そうなんですけども、県から支援員を配置してもらってます。

そういった中で、子どもたちがこれまでの特別支援学級にずっと在籍してそこのところで生活するんじゃないかと、いろいろ交流を図りながら、そして学習やいろんな活動をしていくと、こういったところを目指してございます。

そういったのをさらに増やしていくという中で、その子どもたちに合った活動がどういう形がいいのか、そういった中でいわゆる通常の学級のほうにも入りながら、そして進めていくという考えでございます。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 インクルーシブ教育についても今後ともきちっと取り組んでいていただきたいと思います。ちょっと時間がなくなってしまったんで、1番の質問について、最後、町長にお伺いしますけど、やはり子どもに優しいまちづくりというのは、大変今後これから重要だと思うんです。

そういった部分で第6次総合計画等策定に取り組まれてるかと思うんですけど、その柱の一つに子どもに優しいまちづくりというのを入れて取り組んでいく、そして時代を担う子どもたちを地域で見守り地域で育てる、そういったことが今後求められてくるのかと思うんですけど、その辺について町長どのようにお考えでしょうか。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるとおりです。やはり山北町、子どもに優しいというか、当然今少子化の中で非常に町の人口についても苦労してるわけですけども、全体的に学校教育、あるいは放課後子ども教室やクラブというようなことだけでなく、全体的に町全体でできることをそれぞれが関係ありますんでやっついこうというふうに思ってます。

先ほど質問がありましたインクルーシブ教育の中でも、今、遊具の中でいくつかの公園にインクルーシブの遊具を設置しております。これからは、ブ

ランコにしても何にしてもそういったようなものが必要ではないかというように考えておりますので、そういったようにこれだけがこれということじゃなくて、やはり町全体でいろいろな子どもたちを取り囲む環境についてやっていかなければいけないと思っております。

特に、先ほど放課後児童クラブのこれも質問されましたけども、やはり保護者の方、そしてそこに使われる児童の方がやはり年々変わっていくわけです。1年生も入ってくるあるいは6年生が卒業していく、そういう中でやはり子どもたち、そしてまた保護者に合ったような運営の仕方というのを、随時いい方向にやっていかなければいけないというふうに思っておりますので、その中で町ができるのがやはり建物とかそういったような環境をしっかりとしたものを与えるということで、想定としては100何名いるんですけど、実際半分ぐらいしか使っておりませんので、その辺のところのバランスというのも非常に大事だというふうに思っておりますので、そういったようなただ単にこれは学教教育に任せるとかそういったことでなくて、町全体として取り組んでいかなければならない課題だろうというふうに思っておりますので、また皆さんからいろいろな御提案があれば真摯に受けたいというふうに思っております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 町長も前向きな回答だったかなと取り組んでいかれると信じて、次の質問に移らせていただきます。

ちょっと時間が押しててあれですけど、次に移住定住促進のほうに移らせていただきますけど、東山北1000まちづくり基本計画に基づいて取り組まれていると思うんですけど、令和5年1月にみずかみテラスのほう、全戸入居されてると思いますけど、その内訳ですか、町内外からの移住者等についての、その辺について説明願います。

議 長 定住対策課長。

定 住 対 策 課 長 それでは、みずかみテラスのここで契約・入居の状況について説明させていただきます。

水上住宅につきましては、全部で25戸の住宅になっております。それが今年の1月に全て契約が済みまして、全て今現在皆さん入居しているような状況になっております。

入居の世帯ベースでいきますと、町内が4世帯で7名の方、町外からが21世帯で46名。割合で言いますと、人数ベースでいきますと、町外の方が87%というような状況になっております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 今、御回答ありましたけど、ということはみずかみテラスに関して言えば、町外からの移住者というのにかなり効果があったと、そういうふうな認識されると思うんですけど、そういった中で今後みずかみテラス周辺の土地利用というところが積極的に進めていくべきだと思うんですけど、なかなか進捗状況が見えてこないといったところで、東山北1000まちづくり基本計画で住宅ゾーンというんですか宅地ゾーンとして位置づけられていますけれど、基本民間主導のような想定をされてるようですけど、それだけ町外から移住者が来るというのであれば、あのエリア大変魅力的なエリアだとするならば、町がもっと積極的に、町主導でやってもいいんじゃないかというふうなことも考えられると思うんですけど、その辺についてはいかがお考えでしょうか。

議 長 町長。

町 長 今現在、水上地区については、みずかみテラスができて、そして今度保育園のほうの向原保育園の移転をどの場所に移転するかというのを今検討しております。それがある程度決まった段階で残りの部分をどういうふうに住宅地、あるいは何かに張りつけるか。まあ、それを今の御質問ですと町主導でというようなことをおっしゃいますけども、基本的には民間の方に協力していただいて、そこのところを開発なりしていただけないかというふうに思っています。

町としては、やはり今までのみずかみテラスや、あるいは山北の駅前のようなものをさらに別のところにやっていきたいと、そういったところで効果を徐々に出していきたいということで、やはり町がやるべきこと、あるいは民間のほうでやっていただくことというのはやはりどこかに境というんですかがあるんじゃないかと、やはり町がやりますとどうしても民間の人の土地、あるいはアパートとか建て売りとかというのも、条件的にどうしても町のほうが若干安いというような民間の方を若干制限してしまうようなことが起こるんじゃないかということを考えますので、やはり民間がやるべきことは民

間の人にやっていただいて、町がやるべきことは町がやると。そういうような考えで進めております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 民間がやるべきところは民間がやる、町がやるべきところは町がやるというような御回答でございましたけれど、東山北1000まちづくり基本計画策定から12年たって、生活利便性向上はあのエリア向上した成果が出てるかと思うんです。それによって、結構あそこの周辺地域ですか、結構魅力的になってきているという現状もあります。そういった中で、やはり水上地区並びに尾先地区、この辺、積極的に計画を進めていく必要がある。

そういった中で、12年計画策定からたっております。といったところで、時代も変化しております。そういったところで、いま一度、見直しじゃないですけど修正、そういったものも視野に入れて取り組む必要があるのかなというふうに感じておりますけど、その辺について、いかがお考えでしょうか。

議 長 町長。

町 長 多少答えとちょっと、質問と違うかもしれませんが、基本的な私の東山北1000に対する考え方というのは、やはり、まず今住宅が少し増えてきて民間がやっていただいたり、あるいはまた商業地域が小田百さんとかいろいろなものができて、一応、何か皆さんうまくいってるように思いますが、どうしても人口をもう少し張りつけないと撤退しちゃうわけです。

いろんな周りの方をみてもやはり御商売やってる方そういったようなことを考えると適正な人口という、あるいは流れというんですか。というのがないと非常に難しいというふうに考えておりますんで。そういった意味では、まず、今計画の中で向原線というのはまだ完成しておりませんので、1000人の張りつけるという、そのところをまずクリアしないとこれから何十年も御商売を続けていく方がずっと安定的にそこでやっていくということが難しいというふうに思ってますんで。やはり、まずこの東山北1000の計画には、しっかりとこういった中で。

ただ、その中でまた新東名のこともありますんで、当然これから新東名のほうにかかっていかなければいけない。町の予算もどうしてもそちらのほうに多分シフトしていくんだらうというふうに思ってますんで、そういった意

味では、今現在、町が東山北だけに集中的にやるというわけにはいきませんので、民間の事業者の方とタイアップしながら一緒になって、まず東山北1000をまずつくり上げて、そして皆さんが安定的に住んで安心していけるような地区をつくる。その中で次に今度は清水地区で、あるいはこの山北地区もどうしても遅れてる部分については、どうしてもこれからやっていかなければいけない。そういうふうと考えておりますので、その辺のところの御理解をいただければありがたいというふうに思っております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 時間がなくなってきましたので、まとめのほうに入らせていただきたいと思っておりますけれど、東山北1000計画をきちっとやった上で、次に取り組んでいくというようなお話でしたけれど、まさにそれでそういう感じで東山北1000計画の次には山北1000計画、谷峨1000計画、三保1000計画、共和1000計画、そうすれば5000増えることになるので、そういうふうに行っていただければ山北も持続可能になってくるのかなといったところでゆっくりやられてたでは効果が薄れてきてしまうので、やっぱり積極的にスピード感を持って取り組むための工夫等をする必要があると思うんです。

そういった部分で、ある程度修正を東山北1000計画につきまして、修正等をてこ入れですか、そういったところも踏まえて取り組んで行ってスピード感を持って取り組んで行っていただきたいというふうに感じますが、その辺については……。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるようにできるだけ、今、和田議員がおっしゃったように各地区を積極的にやっていきたい。その中でやはり土地利用というのが、今、第6次総合計画と並んで土地利用の計画のほうも進めております。

これらを推進していくためにはどうしても一つは財政的な問題があるということになりますので、ふるさと納税等を積極的に活用できるように今取り組んでおりますので、これらを少しでも伸ばして、計画に勢いをつけていくということが私は大事ではないかというふうに思っておりますので、様々なことにぜひ積極的に御提案いただければ検討してまいりたいというふうに思っております。

議 長 和田成功議員。

3 番 和 田 期待しております。積極的にスピード感を持って取り組んでいただきたいと思います。

以上。